

令和7年10月3日



国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター東北育種場



岩手県林業技術センター



東北森林管理局岩手南部森林管理署

「抵抗性アカマツ試験地」の設定と植栽について

ポイント

- ・岩手県内では、アカマツは全国有数の産地であり材質も優れていることから、「ナンブアカマツ」と呼ばれ県の木にも選ばれています。
- ・一方で、マツ材線虫病によるアカマツの被害が県内でも拡大しているため、これまで、この病気への抵抗性があるアカマツが開発されてきましたが、成長や材質面での優れた特性と抵抗性を併せ持つ、新たな抵抗性アカマツの開発が課題となっていました。
- ・このため、東北育種場、岩手県林業技術センター、岩手南部森林管理署の三者は、このたび、これらの特性を持つ新たな抵抗性アカマツの開発・普及を目指し、奥州市の国有林内に試験地を設定することとしました。

概要

岩手県では、アカマツは全国でも有数の産地であるとともに、通直で強度が高く加工性にも優れており、「ナンブアカマツ」と呼ばれ県の木に選ばれています。

一方で、アカマツはマツノザイセンチュウへの抵抗力が弱く、マツ材線虫病の枯損被害（松枯れ）が全国的に拡大している中、岩手県においても被害が拡大しており、貴重なアカマツ資源の維持が危ぶまれる状況にあります。

このため、東北育種場及び岩手県林業技術センターでは、この病気に強く枯れにくい抵抗性アカマツの開発を進めてきましたが、優れた成長や有用な材質といった特性と抵抗性を併せ持つ新たな抵抗性マツの開発・普及が課題となっていました。

これらの背景から、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場、岩手県林業技術センター、東北森林管理局岩手南部森林管理署の3者は、

このたび、共同で抵抗性アカマツの植栽後の生育状況や成長・材質等を調査・検証するための試験地を奥州市内の国有林に設定することとしました。

本試験の活用を通じ、新たな抵抗性アカマツの開発に必要な調査を進め、抵抗性アカマツの普及を目指したいと考えております。

また、この試験地における抵抗性アカマツの苗木植栽を下記のとおり行う予定です。

日時：令和7年10月8日（水） 10時

場所：岩手県奥州市水沢黒石町正法寺国有林2林班る1林小班

問い合わせ先など

国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場

事業責任者：育種課 課長 井城 泰一

担当者：育種課 研究室長 宮本 尚子

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 濱本 光

Tel：019-688-4518 Fax：019-694-1715

岩手県林業技術センター

事業責任者：研究部 部長 谷内 博規

担当者：研究部 上席専門研究員 丹羽 花恵

Tel：019-697-1536 Fax：019-697-1410

東北森林管理局 岩手南部森林管理署

事業責任者：岩手南部森林管理署長 志磨 克

広報担当者：森林技術指導官 桑田 伸一

Tel：0197-24-2131 Fax：0197-25-6942

※取材を希望される方は、事前に上記連絡先にご連絡ください。

本資料は、岩手県政記者クラブに配布しています。

背景・経緯

アカマツは、強度が高いなどの特性から古くから建築用材などとして利用されてきた樹木ですが、岩手県では県内全域に広く生育し全国でも有数の産地となっており、また、通直で強度が高く加工性にも優れていることから、「ナンプアカマツ」と呼ばれ県の木に選ばれています。特に、侍浜松（久慈地方）、御堂松（岩手町）、東山松（一関市）などはブランド松として知られ、国有林では保護林や特定母樹林にも指定されています。

一方で、アカマツやクロマツは、マツノマダラカミキリが媒介するマツノザイセンチュウに対する抵抗力が弱いため、この線虫によって引き起こされるマツ材線虫病による枯損

被害（松枯れ）が、北海道を除く日本各地に広がっており、岩手県においてもアカマツの被害が拡大するとともに被害先端地が北上し、貴重なアカマツ資源の維持が危ぶまれている状況にあります。

全国的な被害の拡大を受けて、林木育種センターと都府県は共同でマツ材線虫病に強く枯れにくいアカマツ及びクロマツの開発事業を行い、日本全国においてアカマツで 266 品種、クロマツで 221 品種の抵抗性品種が開発されました（令和 7 年 3 月 31 日現在）。

岩手県においては、重要な位置付けにあるアカマツを中心に抵抗性品種の開発が進められており、開発された抵抗性品種で構成された採種園（種子を取るための樹木園）から生産された苗木を林地に植栽することで、マツ材線虫病に強く枯れにくいアカマツ林の造成を行うことができると期待されます。

こうして開発された抵抗性アカマツについては、特に岩手県での「ナンプアカマツ」としての位置付けを鑑みると、優れた成長や有用な材質であるなどの付加価値を持っていることが重要ですが、これまで、これらの特性の評価が行われていませんでした。

そこで、これらの付加価値と抵抗性を併せ持つ新たな抵抗性マツの開発を目指し、国立研究開発法人 森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター東北育種場、岩手県林業技術センター、東北森林管理局岩手南部森林管理署の 3 者は、令和 7 年 9 月 26 日に「抵抗性アカマツ等試験地に係る共同試験覚書」に署名し、抵抗性が見込まれるアカマツを奥州市内の国有林の造林地に植栽し、それらの生育状況や成長・材質などを調査するための新たな試験地を設定することとしました。

本試験地を活用しマツ材線虫病に抵抗性のあるアカマツを実用化することで、岩手県で重要な位置付けにあるアカマツ資源を持続的に育成・保全していくことができるものと考えています。

内容

今回設定する試験地の概要は以下のとおりです。

(1) 試験地名

抵抗性アカマツ等試験地

(2) 設定箇所

岩手県奥州市水沢黒石町正法寺国有林 2 林班 1 林小班

(3) 面積

0.36ha

(4) 植栽家系、植栽本数

岩手県林業技術センターで選抜した抵抗性アカマツ個体の自然交配実生 18 系統
720 本

東北育種場及び岩手県林業技術センターが開発した抵抗性アカマツの自然交配実生
10 系統 147 本

抵抗性があるアカマツ精英樹の自然交配実生 2 系統 33 本

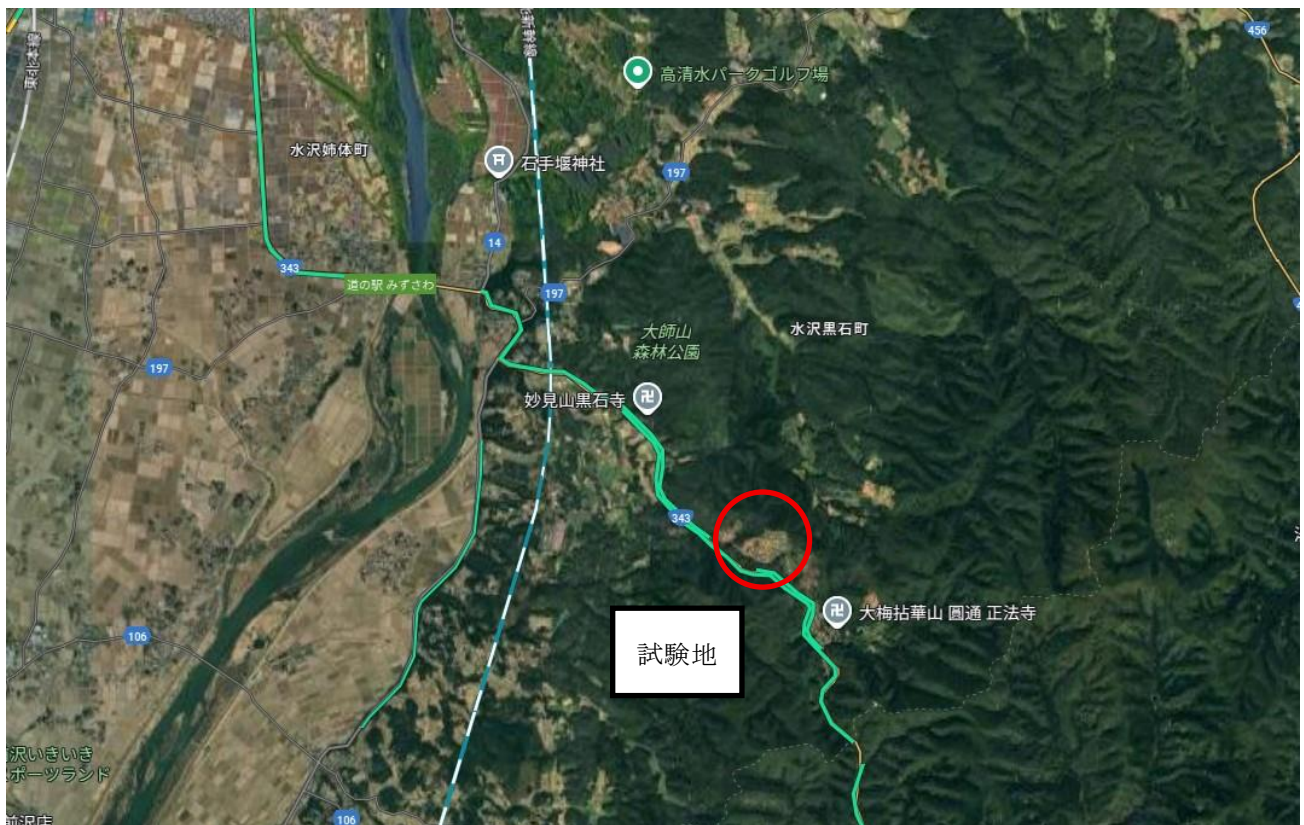


育成中の抵抗性アカマツ



試験地設定予定地（令和7年9月17日時点）

試験地設定予定箇所の位置



Google map から作成